

自主性を伸ばすアート

香月 欣浩 *

Art that Extends Child's Autonomy

Yoshihiro Katsuki

本来は自ら欲するがままに行動し、生きてきた動物。そして人間。美術も同じことが言える。「自ら欲するがままに表現することがアート」のはずだ。そこには決まりなど存在せず、作りたいから作り、描きたいから描いて作品が生まれるものであろう。そのことを忘れ、作品の完成度を重視し、作る過程での発想や挑戦、感情を二の次にした造形表現活動が多いように感じる。完成度も大切であるが、それよりもまず自ら欲するがままに造形表現していくあるべき姿を考えていきたい。

Key words: 子どもの造形、自主性、自分で決める、自主選択の美術、楽しんで伸びる

はじめに

社会に「指示待ち」の人間が増えてきている。これは「本人が悪いというよりも世の中が悪い、大人が悪い」そう思う。「自分で考えて行動しなさい。する事は自分で決めなさい」と言いながら、半ばで口だししたり、手だししたりする。あげくの果てに「どうしてそんなことするの」などと矛盾した事を言うのだからたまらない。だから子どもは自分で決めておきながら失敗する前に確認する方法をとるようになる。「〇〇してもいいですか？」何でも許可を貰ってからの行動だ。それならまだいい方で、最悪な事に「どうせ怒られるのなら、言われた事だけをしよう」そんな姿勢になってしまう。そこに大人が「最近の子どもは自分から何もしようとしない」と愚痴を言い、指示を出す。指示通りやっていたら、子どもはしかられず、大人も気持ちがいい。指示待ち人間を作り出しているのは大人なのだ。子どもは「できないのではない」。大人が「させていない」だけなのだ。

誰だって初めはできない。下手くそだ。それを通

り越して初めてできるようになる。みんなそうやって大きくなって来たはずなのに大人はそのことを忘れてる。

その原因はなにより「大人に我慢が足りない」ことだ。すぐに口を出し、手をだし、先回りする。子どもは自分で考え、試してみ、再挑戦し、自分流の方法やコツを見つけ出すはずだ。そのチャンスが大人が奪っている。だから口出し、手出しを大人が我慢しない事には指示待ち人間がどんどん増えていくばかりだ。

私は子ども達に「自分で決めて行動すること」を知ってもらい、「自分の方法で成功した時の喜び」を感じて欲しい。その足がかりをアートを通して学んで行って欲しい。そういう想いから幼稚園でアートクラブの活動を始めた。今からその方針と活動の内容を示しながら、表現活動、指導がどうあるべきか考えを述べて行きたいと思う。

従来の考え方

指導者が「材料と道具はこれです。そして青絵の具をここに塗って、折り紙をここに貼り、こうしてください。これが完成品です。」と示すと、子ども達はこの完成品に近づくように、大人の言った通りに作っていく。ゴール（目標）はひとつだ。同じ様な作品が人数分出来上がり、大人も子どももホッとする。その作品には失敗は無い。しかし

* 四條畷学園短期大学 保育学科

そこには「自分だけのものを作る」ための挑戦や工夫も無い。技術や知識は身に付くが、自分だけの考え方や方法を見つけ出す術は身に付いていない。

方針

私の行っているアートクラブの活動では「今日はこの新聞紙とのり、はさみを使って何か作ってみましょう。何ができるかなあ？楽しみです」と、指導者は活動でやろうとしている方向は示すが、細かい事は指定しない。そこは子ども達が自分で決めて行く。だからゴールはひとつではない。みんな違っていい。目指すは「自主選択の美術だ」「人参と豚肉、包丁などを使ってお料理をしよう」といって、みんながそれぞれ酢豚や野菜炒めや八宝菜、サラダ、すき焼き、肉巻き、やきそばなどを自分で決めて作っていくのと似ている。

指導者の言われるがままに制作していくのではなく、初めから自分で考え、決め、制作していく姿勢を幼少期の頃から身につけておいてほしい。

内容

1. 新聞紙で遊ぼう
2. グルグル絵の具
3. 絵本づくり
4. 輪づくりワワワ
5. 自主選択の絵画
6. 巻き物絵本
7. ロックンローラーでGOGOGO！
8. 巻き物絵本②
9. ガラクターワークショップ

1. 新聞紙で遊ぼう

内容) 新聞紙を使って自分で「あそび」を考え、実践していく

ねらい) 身近な素材を使って工夫すれば遊べる事を感じる・紙を引き裂く時の音と感触を楽しむ・宙を舞う紙の音と動きを楽しむ

用意) 新聞・大きな布袋・段ボール（風おこし）

手順) 新聞紙を1枚ずつ持つ・素材を感じる（※1）・布団やマントなどに見立てて遊ぶ。（指導者が見立てるものを提案して子ども達の創造力を引き出す）・縦に引き裂く・宙に掘り投げて遊ぶ・子ども達を一

カ所に集め、上から新聞紙をふらす・今度は風を起こして新聞紙を舞わせる・布袋に新聞紙を集める・サンドバックのようにしてパンチやキックをする

発 展) 新聞紙の見立てを子ども達から引き出す・新聞紙を使った遊びを展開する・切り裂いた細長い新聞紙をのりですらないで行く

（※1）巻く・輪にする・新聞紙を宙でひらひらさせる・立てる・折る・巻く・棒にして叩く・広げてボールを載せて運ぶぐしゃぐしゃに丸める・投げる



2. グルグル絵の具

内容) 大きな紙の上で絵の具を手や足で、おもいきり混ぜたり伸ばしたりする

・いつもは経験できないことをする

ねらい) 絵の具の感触を楽しむ・混色の不思議さを感じる・大きな紙の上で思い切り体を使って表現する

用具) ・白ロール模造紙・ポスターカラー（白・赤・青・黄）・汚れてもいい服・霧吹き・ぞうきん

手順) 模造紙を広げる・まわりに子どもを座らせる・絵の具を子どもの前の紙上に少しずつ出す・指1本で絵の具を触りスタンプングする・指の数を増やしていく・手のひらを使って思い切り絵の具を紙にのばす

発 展) 手型を別の紙に付いたり、手を使って直接絵を描く・遊んだ絵の具の軌跡を別の紙で写し取る（版画）・

混色を楽しむ自分だけの色紙を作る・紙でなくガラス、板、プラスチックの上で行なう。



ポイント) 絵の具が固まってきたら霧吹きで水をかけると絵の具が溶けてのびやすくなる

3. 絵本づくり

内 容) 自分で作った色紙から何かを想像して切り取ったり、加筆し絵本を作る

用 具) はさみ・のり・カラーペン・B4サイズコピー紙10枚・同サイズカラー紙2枚(表紙)

手 順) 表紙、コピー紙をホッチキスでとめる・前回『グルグル絵の具』で作ったオリジナル色紙を見て色の模様が何かに見えなにか想像する・はさみで切り取り、冊子にはる・必要ならペンで描き込んでもよい・指導者は子どものお話を聞きながら発想を膨らませる

発 展) テーマを与えて大きな紙に貼ってみんなの合同作品を作る。例：みんなの町、みんなの動物園、不思議な乗り物



4. 輪づくりワワワ

内 容) 紙の短冊を丸めてきれいな形の輪を作り、組み合わせ造形して行く

ねらい) ひとつの決まった形(輪)をどう並べ、どう接着するかで自分だけの形やものを作り出す

用 具) はさみ・セロテープ・ペン・紐・薄手の画用紙短冊(白・カラー)・台紙

手 順) 白紙の短冊を丸めて色々な大きさの輪をセロハンテープでとめ、作る・連結してオリジ



ナルのものを作っていく・頃合いを見てカラー短冊を渡す・おもしろいアイデアはみんなに紹介する・台紙に貼る方法も紹介する

発 展) 紐やゴムなどをつけ、動くおもちゃにする・置く、吊るとインテリアになる

ポイント) まず1個目の輪をきれいに作れるようにしっかり指導すると、2個目からはうまくいく

5. 自主選択の絵画

内 容) 材料、道具、主題すべてを自分で決めて絵を描く

ねらい) 答えはひとつではない事を「自分で考え、選び、決定、実行する」ことで理解させる

用 具) **支持体** ダンボール・包装紙・和紙・トイレットペーパー・紙テープ・コーヒーフィルターなど

筆として ハケ・軍手・たわし・スポンジ・スポイド・ローラー・枝・わりばし・ボール・トイレのブラシなど

塗料として 絵の具・クレパス・鉛筆・墨・マジック・コンテ・落ち葉・カラーペン・色鉛筆など

手 順) 好きな材料、好きな大きさに支持体を作る・塗料も道具も自分で決め支持体に描いていく・題を最後に決める



発 展) 絵画だけでなく、工作、立体制作、はなが、粘土などの領域でも自主選択を実践する

ポイント) 子どもの新しい発想を



否定せず、どんどん褒めて奨励するような雰囲気を作り出す事

6. 巻き物絵本

内 容) 巻き物を作って、中に物語の絵を墨と綿棒を使って描き込んでいく。

ねらい) 巻き物を作れる事を知る・綿棒で描く感触を味わう。めくる絵本とは違う巻き物の進み方を楽しむ

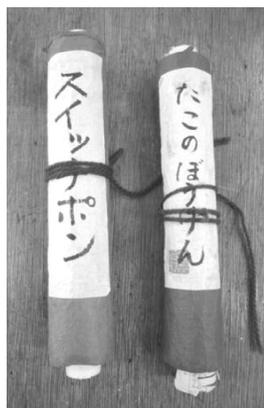
用 具) A4 コピー用紙 10 枚、新聞紙、和紙、毛糸、綿棒、墨、トレー

手 順) 新聞紙で巻き物の軸を作る・コピー紙をのりで横向きにつないでいく・最後に表紙の和紙を貼り、毛糸を付ける・綿棒に墨をつけ端から絵を描いていく

発 展) 巻き物型の思
い出アルバム、お絵描き
帳として保存
する・縦向き
に描いていくの
もよい。



ポイント) なかなか手の動
かない子には、
好きなもの、動
物、お花、果物、
乗り物のお話を
して、描けそう
なものを気付か
せる



7. ロックンローラーで GOGOGO !

内 容) 大きな紙の上でローラーを使って、絵の具をのばして思い切り絵を描く

用 具) 白ロール模造紙・ローラー・ポスターカラー (赤・黄・青・白)・プチプチ (緩衝剤)・トレー・水

手 順) トレーに 1 色だけ好きな絵の具を入れる・ローラーを使って絵の具をのばす・友達との混色も楽しむ・緩衝剤を使って絵の具のスタンピングも紹介する

発 展) ステンシル・色紙づくり・幾何学デザイン

ポイント) 実は色紙づくりも兼ねている。混色のしすぎは暗い色(茶色)ばかりになっていくので、色々な色を作ろうと言って、やり過ぎを気にさせる。



8. 巻き物絵本

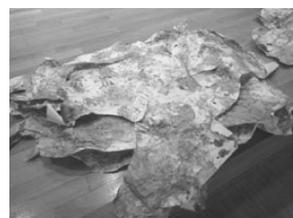
内 容) 前回『ロックンローラーで GOGOGO !』で描いた色紙を何かに見立てて切り取り、巻き物絵本を作る。

用 具) はさみ・のり・ペン・色紙の切れ端・白コピー紙 10 枚・新聞紙・和紙・毛糸

手 順) 作った色紙を 30 p × 30 p くらいの大きさに切っておく・巻き物を作る・色紙を見つめて何かに見立てて切り取り、巻き物に貼っていく・加筆しても良い・表紙に題を書いたら完成

発 展) 見立てが楽しくなったら壁面に貼って、壁面物語を作る・ゼロからの発想ではなく、色紙、箱などの素材(媒体)から発想を導きだす想像力を利用した制作

ポイント) 想像がうまくできない子どもには、好きなもの、動物、お花、果物、乗り物のお話をして、それを指導者が紙の中に見立て、示してあげる・それでもできない子には線を描いてあげ、切らせるとよい



9. ガラクタワークショップ

内 容) 大小、色もさまざまな廃材から発想を広げ、自分だけの作品を作り、商品のようにパッキングして飾る。

ねらい) 廃材の色や形から自由な発想を引き出す・捨てるものでも発想次第で宝物になることを感じる

用具) 大小、あらゆる形、色、材質の廃材 例：
キャップ、ボタン、紐、プラスチック、
容器、箱、針金、使用済み電池、芯、テープ、
絵の具、マジック、ボンド、ドライヤー、
筆、新聞紙、

手順) 廃材から自由に作った作品をパッキング
して展示する制作工程を説明・作業場、
道具の使い方説明・各自制作開始

発展) 動物、お城、
乗り物など、
テーマを持って、各自
制作する

ポイント) 容器に穴が
ほしい場合は指導者が
キリで開けてあげる



経験

より多くの子ども達に「自主選択の美術」を経験
して欲しいために今年度は1グループ20名で4
回、合計4グループの活動を行った。しかし「自
分で考え、決定、実行して行く姿勢」を身につけ
るにはもう少し時間が必要だろう。せめて1グル
ープ8回くらいの経験の繰り返しがあれば身につ
くまではいかなくとも、記憶の端に残るかもしれ
ない。悩むところである。活動終了後、保護者か
ら頂いた感想文を、ここでいくつか紹介する。

感想

- ・家では、なかなか出来ない取組みを全身使って表
現させてもらったことに、とても感激し、またビ
ックリしました。子どもに「これがアートだよ！」
と逆に教わりました。
- ・これからは自分の力で考え行動していく子育てを
して行こうと思いました。
- ・アートに正解は無い！自由が良いと感じるようにな
った。
- ・アートクラブに行きだして、まず変わったのは、
私がゴミとして捨てようとした物を「ちょっとち

ょーだい」と言ってハサミで切ってみたり、絵を
描いてみたり色をぬったりと、あたえられたおも
ちゃで遊ぶだけではなく、自分で考えて楽しく遊
んでいるような感じがします。

- ・子どもの発想にまかせて作品を作らせてもらえた
ことが良かった。
- ・絵本作りで“想像をふくらませ、形にする”今ま
で“上手く出来ないとイヤだなあ”とあまり挑戦
しなかったものにも、楽しく進んで取り組んでい
る姿に喜びを感じました。
- ・もともと大好きな分野ではありますが、家では何
かと制約事が多くなりがちです。今回は思う存分、
自分の好きなように使ったり、作ったり、描いたり
…とても貴重な体験ができたと思います。
- ・新聞紙や身近な物でも、子どもにとっては、とて
も楽しい遊び物に変わるので、家でも工夫して遊
ぶようになりました。また片付けも声かけひとつ
で楽しいものにも変わるのだと感心しました。

指導について

自主性を重んじたあまり、助言、指導がなさ過ぎ
ると、表現に広がりが無くなる。助言、指導があ
りすぎると子どもは指導者の言う通りにしなけれ
ばならないという雰囲気になってしまう。人間が
いる数だけ考え方や感じ方も違うから同じ言葉掛
け、助言をしても受け取り方が違ってくる。こち
らがよかれと思い、助言した事がプラスにもマイ
ナスに作用する。なるべく自分で考えて、実行し
ていけるよう働きかける一方で、同じ事をして安
心している子には新しい挑戦をするように促す事
も大切である。「指導者の助言と子どもの自主性の
尊重」この割合が非常に重要になってくる。何を
目標にするのかによって、この割合は変わって
くる。いい作品(結果)を求めるだけなら、指導者
の思う作品に近づくように、どんどん指導し子ど
も達にやらせればいい。逆に子どもの自主性を重
んじるならば、できるだけ子どもに任せ、様子を
うかがいながら臨機応変に助言をしていく。この
臨機応変が指導の命である。どのように臨機応変
に対応していくかが指導者の力量を試される所
である。

おわりに

子どもの表現が「答えがひとつではない」ように、

臨機応変の助言や対応もまた答えはひとつではない。子どもとの関係性、発達段階、時期、タイミング、気分、言い方、目標の設定などが複雑に左右する。絶対の正解はないが子どもたちが喜んで表現をし、有益な経験となるように、子どもをしっかり観察し理解を深め、研究をこれからも進めて行こうと思う。

－ 20011. 3. 15 受稿、20011. 3. 17 受理－